

この部屋は伊達藩主の親族の待機場所だった。長谷川等伯（生没不明）による天井の繊細な細目や襖絵のクラシックなデザインは宮殿のような高貴さを空間に与えている。襖絵の雲には、絵を描く前に、砕いた貝殻から作られる顔料を加えることによって施された細かい隆起した模様が見られる。襖は中国の古典の一場面を描いている：周の文王（1152-1056 BC）と一見普通の漁師であった呂尚が出会う場面である。文王は呂尚の慈悲深い世界観にとっても感銘を受け、彼を軍師にした。この決断が周王朝の成功の基盤となっていると言われている。中国の古典には、文王は国王のモデルとして描かれており、このシーンは当時の支配者である伊達氏が使用する部屋にぴったりのモチーフであった。部屋の名前は中国語の Wen 国王を日本語で文王と発音したことにちなんで付けられた。